

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0292000023		
法人名	株式会社 リバース		
事業所名	グループホーム いきがいの里		
所在地	青森県東津軽郡外ヶ浜町宇蟹田内黒山12-164		
自己評価作成日	令和元年9月10日	評価結果市町村受理日	令和元年12月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央三丁目20-30		
訪問調査日	令和1年10月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>自然に囲まれた環境の中で、家族や近隣住民から提供していただいた食材を活かし、日々の献立を工夫しながら、手作りの食事を提供している。 可能な範囲で利用者にも役割を持っていただき、楽しく、家庭的な雰囲気の中で生活できるように取り組んでいる。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>職員は理念の意味を理解し、笑顔で利用者へ接しており、明るく、笑い声が絶えず、利用者の生き生きとした雰囲気を感じることができるホームである。 全職員が救急救命講習を受講しており、利用者の急変時に対応できる体制となっているほか、全職員が介護記録等をパソコン入力して介護内容の検討や再確認に役立てており、情報の共有化を確立している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念を玄関やホール内の目に付く場所に掲示し、常に理念の共有化を図っている。全職員はホームの理念である「住み慣れた地域の中で笑顔を決やさず感謝の気持ちを込めていきがいのある暮らしを」を常に念頭に置いて日々のケアを行い、サービス提供に反映できるように努めている。	管理者や職員は開設当時の理念を掲げ、地域住民との交流を行い、利用者が住み慣れた地域で笑って暮らして行けるようにという方向で支援を行っており、地域密着型サービスの役割を理解している。また、職員は理念を暗記しており、日頃からサービス提供場面に反映させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員が付き添い、町内の商店での買い物や理髪店へ出かけることで馴染みのお客様となり、地域との交流を図っている。利用者は地元の方が多いため、町内に出向くと気軽に声をかけてもらって会話する等、交流を行っている。	退所後も家族の訪問があり、商店や床屋等、地域の社会資源に関わりながら、ホームを理解してもらうと共に、「生き生き祭り」等に利用者の作品等を展示したり、小学校の学習発表会の練習風景の見学、中学校の実習受け入れ等、交流を図るための働きかけを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生のホーム見学や実習生の受け入れを行い、認知症の人への接し方や支援方法を学んでもらっている。また、町の健康祭りへ参加して、認知症の予防及び理解についての普及活動を行っている。その際、個人情報となり得る掲示物の取扱いについては、利用者や家族から同意を得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、第3水曜日に運営推進会議を開催しており、利用者や家族、地域住民代表、社会福祉協議会、役場担当課、民生委員が参加している。会議ではホームの運営状況や取り組み、自己評価及び外部評価結果等を報告し、意見交換や情報交換を行い、サービスの向上に活かすように努めている。	運営推進会議へ毎年各ユニット交互に利用者や家族へ参加していただく等の工夫を行っている。会議では利用者の入居状況の報告や情報交換を行っているほか、困っている事や介護報酬の改定に伴う料金報告、基準、内容の詳細等について委員から意見をいただき、今後のホームの質の向上に繋げていく取り組みを行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の委員として役場担当課職員が参加している。また、自己評価及び外部評価結果を報告し、問題点を運営推進会議の議題として話し合っている。随時、不明な点があった場合は、電話やFAX等で回答をもらっている。	会議には毎回、役場担当課職員や地域包括支援センター職員が参加しており、ホームの運営状況を説明し、会議の中で課題解決に向けた助言を受け、必要に応じて介護保険やその他種々の相談を行う等、日頃から電話等で連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、勉強会やカンファレンス、職員会議等を通して、代表者及び全職員は身体拘束禁止の対象となる行為を理解している。やむを得ず身体拘束を行う場合は、マニュアルに沿って拘束の方法や場所、時間帯、期間、経過観察等の記録、家族への説明と同意を得る体制となっている。外出傾向のある利用者については、両棟の職員が連携を取り、見守りを強化している。外出した場合は、職員が付き添っている。地域の方には無断外出時に協力を得られるように働きかけている。	身体拘束廃止委員会を毎月開催している。身体拘束マニュアルを作成しており、やむを得ず行う場合に備えて、書類の整備や家族から同意を得る体制を整備している。また、職員は内外の研修に参加して、身体拘束の弊害や内容について理解を深め、利用者の無断外出時の対応方法を統一し、近隣住民の協力を得ながら、全職員が身体拘束をしないという姿勢で日々のケアに当たっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修で学び、知り得た知識は勉強会を通して全職員へ共有している。全職員へ虐待防止を周知徹底し、防止に努めている。ユニットリーダーは職員の言葉遣いや他の虐待に繋がり得る行為を未然に防げるよう、職員の日々のケア場面を観察し、指導や助言を行い、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	常勤職員が中心となり、勉強会を開催している。また、制度の利用が必要な方には、地域包括支援センター等と連携を図り、活用に繋げていく支援体制となっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明書を基に、ケア方針や取り組み等について利用者や家族に説明し、事例等を挙げて意見や疑問点を引き出すように心がけている。契約改定時は家族会を開催し、十分に説明を行い、同意を得ている。退居の際は、契約に基づいて十分に説明を行い、同意を得ているほか、退居先に不安を生じさせないよう、必要な情報提供を行う等、支援している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回(4月、10月)家族会を開催している。面会時等、家族が意見や要望等を話しやすいような雰囲気作りを心がけている。また、玄関に意見箱を設置し、苦情受付窓口を重要事項説明書に明記している。意思表示の難しい利用者には、言動から察したり、家族から聞き取りをして話を聞くように対応している。	重要事項説明書に苦情に関する対応を明記しており、入居時に利用者や家族に説明しているほか、意見箱を設置して、いつでも意見や苦情、要望等を出せるようにしている。職員は絶えず利用者の言動や様子に注意を払い、意見や要望の把握に努めているほか、家族の面会時や家族会総会時に確認している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談を行い、職員の意見を聞く機会を設けている。また、毎月定例の職員会議を開催し、各棟のユニットリーダーが職員からの提案や要望をまとめ、議題として話し合っている。	管理者は職員との個人面談を行い、意見や要望、相談に乗っているほか、相談があればその都度、職員の話聞く機会を設けている。また、毎月の会議の中で職員から出された意見や要望、提案等の検討を行う体制を確立している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	代表者は介護職員として現場へ入り、職員の頑張りや勤務状況を把握している。今年度は常勤職員の昇給を行っている。年1回、健康診断を行い、身心の健康を保持する体制を整えているほか、町内で実施しているがん検診を受診するように促している。労働基準法や就業規則に則って、職員の労働環境を保っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の内部研修計画を作成し、月1回研修を開催している。近年職員数が少なく、思い通りに外部研修へ参加ができていないが、外部研修の案内があった場合は回覧し、参加を促している。研修受講者には勤務体制に配慮し、研修後は報告書を作成し、内部研修等で伝達講習を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外ヶ浜地域グループホーム協議会へ参加し、合同運動会や勉強会にて意見交換や交流を図り、サービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始する際には本人が安心してゆっくりと話ができるよう、職員が自宅や他施設を訪問し、アセスメントを行っている。利用者との会話の中から、本人の要望や不安に思っている事を十分に聞き、利用者の思いと向き合い、安心してもらえるように対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との関係性を深めるため、家族とのコミュニケーションも大切にできるように努めている。家族と直接ゆっくり話ができるよう、家族の時間に合わせた話し合いの機会も設け、家族が抱えているニーズや要望を十分に把握し、より良い関係となれるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の利用者や家族の希望、ニーズに対して、介護支援専門員がどのサービスが適しているかを見極め、対応をしているが、対応が困難な場合は方策を検討し、必要に応じて地域包括支援センター等の関係機関と連携を図り、他サービス機関に移行する支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々共に生活することで、家族のように喜怒哀楽を分かち合い、理解できるように努めている。利用者には裁縫や調理のほか、それぞれの得意分野で力を発揮してもらい、利用者と職員が互いに支え合う関係を築いている。常に利用者へ感謝の気持ちを忘れることのないように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報交換を密に行うことで、利用者の現在の様子や思い、職員の気づき等の共有を図っている。また、家族から本人を支えていく上でのアドバイスをもらったり、家族ボランティアの依頼を行い、夏祭りの準備や花壇の手入れ等、家族として共に支える関係を構築するように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時のアセスメントや日々の会話、家族からの情報収集により、利用者がこれまで関わってきた人や馴染みの場所を把握し、希望に応じて馴染みの場所へと出かけられるように支援している。また、馴染みの人との電話や面会を取り持ち、交流を継続できるように支援している。	入居時、利用者や家族へのアセスメントや日々のケアの中で馴染みの人や場所を把握している。手紙のやり取りや電話の取り次ぎ、希望する場所への外出等、馴染みの場所やこれまで関わってきた人達との関係を継続できるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者個々の性格や人間関係を十分に把握した上で、軽作業等の役割分担や食卓の席決めを行い、共に助け合い、支え合って生活できるよう、より良い関係づくりに努めている。利用者同士にトラブルが生じた場合は、互いに影響が残らないよう、職員が間に入って関係の調整を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、これまで築き上げてきた関係性を継続できるよう、利用者や家族へ今後も相談や支援に応じるという姿勢を示し、必要な際は支援や助言を行うように努めている。また、退居先の関係者に対しても、環境や暮らし方の継続性に配慮してもらえよう、利用者の状況や生活歴、これまでのケアの情報を提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話しやすい関係を構築して、全職員が日々の会話やケアの場面で、聞き取り可能な利用者には直接、意向を聞き取っている。会話が困難な利用者は、言動等から思い等を汲み取っている。また、家族の面会時には必ず情報収集にも努めている。	職員は話しやすい雰囲気作りに努め、日々の会話の中から利用者の思いや意向を把握している。確認が困難な場合は、利用者の表情や仕草、行動から判断し、利用者の視点に立ち、意向を把握するように努めると共に、家族や友人、知人から情報収集して、職員間で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に利用者や家族から生活歴や性格、利用してきたサービス等について、情報収集を行っている。また、関係機関から情報提供書もらい、入居後も利用者が心地良く暮らせるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者毎に体調チェック一覧表・ケア記録・排泄チェック表等、各種チェック表に記載し、全職員で情報を共有している。また、センター方式を利用し、日々の生活の中でできる事や分かる力の把握を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスや申し送り等を通して、利用者や家族、職員の意見や気づき等を十分に話し合った上で、介護計画を作成している。また、現状に沿った個別具体的な計画を作成しており、実施期間を明示して、期間終了後には見直している。	利用者や家族から意向確認すると共に、職員の意見や気づきを基に、毎月のカンファレンスで検討を行い、個別具体的な介護計画を作成している。実施期間終了時や意向、希望、心身状態に変化が見られた場合は再アセスメントを行い、随時、介護計画を見直して作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりの日々の様子や身体状況等を十分に把握した上で、支援内容に沿ったサービスを提供している。また、アセスメントシートにも記録し、全職員が情報共有できるように個人ファイルにまとめている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者及び家族の要望に応じて、買い物代行や馴染みの美容室等への外出支援を行っている。また、町外の受診は家族へ依頼しているが、家族の支援が無理な際は職員が受診支援を行っている。家族に代わってサポートしており、場面に応じた柔軟な対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	関係機関(地域包括支援センター等)とのネットワークの形成や病院主体の施設連携会議へ参加している。また、外ヶ浜・今別地区の4つのグループホームが合同で運動会や勉強会を開催している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回、かかりつけ医による巡回診療を行っている。また、利用者や家族が希望する医療機関への受診を支援しており、必要に応じて歯科等の受診支援を行っている。受診結果はケア記録の開示や電話連絡により、家族へ報告している。	入居時に受療状況を把握し、利用者や家族が希望する医療機関を継続受診できるように支援している。月1回、ホームへ巡回診療を行っているほか、必要に応じて専門医へ受診できるように支援している。受診結果は電話で報告しており、身体状況の悪化時はその都度、家族や病院、ホームとの話し合いを行い、連携を図っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師がいないため、協力医療機関に対してすぐに相談できる体制を取っている。介護職員は、日常の関わりの中で状態変化を感じた時や急変した場合には、病院看護師に相談して医師からの指示を仰ぎ、必要に応じて受診等をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ADLの状態等の情報を記録した介護サマリーを病棟へ提出して、安心して治療を受けられるようにしている。また、早期退院等に向け、主治医と家族を含めた話し合いを密に行う支援体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアに対応していないことを入居時に説明して、理解していただいた上で契約している。重度化した際は老人福祉施設へ、急変時や終末期状態の際はホームでの生活が可能な限り生活していただき、主治医から利用者や家族に説明して、入院の対応を図っている。	入居時に利用者や家族等へ重度化や看取りには対応していないことを説明している。重度化した場合や緊急時には家族と病院、ホームで話し合い、入院や他施設への異動等の方向を検討することを説明し、ホームの方針を明確にしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習会を2年に1回、実施している。緊急時の対応の流れやAEDの取り扱いをしっかり学び、落ち着いてスムーズに対応できるように努めている。また、緊急連絡網を確認し、すぐに駆け付け対応ができる体制を整えている。体調不良者に対して、日常の健康状態を常に把握し、今後について対応できるように全職員で確認をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を実施している。夜間を想定した訓練等を行い、初期消火・通報・誘導が安全でスムーズにできるよう、取り組んでいる。避難経路を確認して、破損箇所等は修復作業を行い、安全を確保している。また、地域の区長をはじめ、近隣の方々には非常時の協力をお願いしている。	具体的な避難誘導策のフローチャートを掲示して、年2回、利用者と共に夜間想定での避難訓練を実施している。災害発生時に備えて、食料品や飲料水、排泄関係の物品、ストーブや寒さをしのげる毛布等を敷地内の倉庫に3日分程度用意しており、定期的に点検を行っている。また、緊急時に担架として利用できるベンチも用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が利用者個々の性格を把握した上で、プライバシーの確保に配慮している。利用者に関する大切な事は周囲を確認した上で耳元で伝える等、利用者が不快な気持ちにならないように気をつけている。利用者を敬い、利用者の気持ちを十分に理解し、思いやりを持って声かけを行っている。	職員は年長者と接する上での常識的かつ適切な言葉かけを行い、利用者の自尊心やプライバシーに配慮しながら日々のケアを提供している。ホーム全体で利用者への声かけや対応について、日々の確認や会議等で改善に向けた話し合いを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや表情、様子を観察し、何気ない会話の中で不満・希望の訴えを聞き、真剣に向き合っている。受診・散髪・買い物等の訴えは、利用者の希望を叶えられるように行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の1日の流れを把握し、ゆっくり過ごせるように声がけしている。体調によっては無理をせずに休むよう、声がけをしている。また、全利用者でおやつを食べながら会話を楽しみ、食べたい物や行きたい所がないか等を聞き出し、希望があれば計画をしている。利用者の自由を尊重し、声がけや見守りを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みの衣服を選んで、おしゃれをできるように支援している。衣類や身だしなみの乱れには、さりげなくサポートしている。また、2ヶ月に1回、理容店に来訪していただいているが、利用者のこだわりを大切にするために、馴染みの理・美容店を希望する場合には連絡・調整等を行い、送迎も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者から食事アンケートを取り、希望や好みを把握した上で献立を作成し、苦手な物が出る場合は別メニューを用意している。調理準備や後片付け等、力量に応じて役割分担し、職員と一緒にしている。また、可能な限り、職員も利用者と一緒に席に着いて食事を摂り、食べこぼし等のサポートを行い、会話を楽しみながら食事時間を過ごしている。	献立は栄養士が作成し、利用者の身体状況や咀嚼能力、禁忌食品に配慮して、調理員が提供している。職員は調理の下拵えや食器の片付け、テーブル拭き等、利用者の力量に応じた作業を提供し、支援している。また、食事前に口腔体操を行い、職員は利用者と一緒にテーブルで世間話や見守りを行いながら食事を摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表を使用し、1日の食事摂取量や水分摂取量を記録して、利用者一人ひとりの状態を把握している。嚥下機能や状態が低下した場合でも、調理方法やトロミを使用し、バランス良く食べられるように支援している。習慣で摂取している物については途切れることのないように購入し、提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの必要性について全職員が理解し、毎食後に口腔内の洗浄や入れ歯のケア等を行う際には声がけをし、一緒に行うことで利用者一人ひとりの力量に応じた支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを記録・把握し、その人に合った自立支援を行っている。尿意や便意を確認できた際には、速やかに誘導を行っている。失禁時は利用者の羞恥心やプライバシーに配慮して、耳元で声がけし、他の利用者に気付かれないように速やかに行っている。	排泄チェック表により、排泄パターンを把握して、利用者個々の羞恥心やプライバシーに配慮しながら、事前にトイレ誘導を行っている。トイレの場所が分かるよう、トイレや居室ドアに小さな鈴を付けたり、トイレまで誘導矢印を表示する等、工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因と予防のために、野菜は火を通して柔らかくし、海藻やきのこ類を加えることで食物繊維が不足しないように工夫している。「いきいき100歳体操」等の運動も行っているが、効果が乏しい場合は下剤を処方してもらい、利用者の状態に合わせて量を調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	入浴は週2回となっているが、利用者の習慣や希望を取り入れるようにしている。入浴したがない場合には無理に勧めず、時間を変えたり、他職員が声がけする等、工夫をしている。	入居時、利用者や家族からの聞き取りや日常の会話の中から、入浴習慣や好みを把握している。週2回入浴を支援しているが、利用者のその日の気分や状態に合わせ、羞恥心や負担感に配慮しながら、安全に入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調に応じて休息を取り入れている。寝つけない利用者については、ホットミルクやお菓子等を提供し、安眠に繋がるように支援している。希望があった場合には、利用者や家族、医師と相談し、眠剤の服用について調整を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を全職員が常時確認できるようにファイルに保管し、情報を共有している。飲み忘れや誤薬を防ぐために朝・昼・夕でケースに分け、職員2名のチェック体制で薬の確認をしている。服薬による状態変化は記録を残すと共に、医療機関に相談し、調整している。また、薬の変更があった場合には、連絡ノート等で全職員に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴や力を考慮し、食器拭きや洗濯物畳み等の役割を担い、生き甲斐を持って日々を過ごせるように支援している。嗜好品がある場合は居室担当職員が対応し、他の利用者へ迷惑がかからないよう、配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に沿って外出できるように支援している。天気の良い日は職員の声かけにより、外出する時もある。普段行けない場所でも、家族の協力を得て外出できるように支援している。	利用者の体調やその日の気分に合わせて、ホーム周辺の散歩や買い物、外食ツアー等、負担感や疲労感に配慮しながら、外出支援を行っている。また、必要に応じて、家族へ外出協力の依頼をしており、利用者の希望を叶えられるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の支援を得て、自己管理できる方はお金を所持し、買い物へ行った際は支払いを行っている。自己管理できない方についてはホームにて預かり、買い物へ行く際に一定の金額を渡し、買い物を楽しんでいただけるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠く離れた家族との連絡を楽しみにしている方や家族と大事な話をしたいと訴えがあった場合は、あらかじめ家族へ連絡し、時間を調整した上で利用者との会話をさせていただいている。聴力の低い方には職員が付き添ったり、間に入り、安心したやり取りができるように対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のスペースでは掃除をこまめに行い、不快を感じないように努めている。季節を感じていただけるように各職員が館内の装飾にこだわり、手作りで温もりと色彩を楽しめるような作品作りに努めている。	食堂ホールの窓からは自然光が差し込み、テーブルやソファでゆったり過ごすことができるほか、窓の外側にはベランダを設置しており、暖かい日は外気を感じながら過ごすことができる空間となっている。また、壁には職員と利用者が一緒に作成した季節にちなんだ貼り絵や習字等を飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースは利用者が自由に利用できる空間を提供している。利用者同士の繋がりに配慮した居場所作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の希望・訴えに合わせ、配置を決定している。また、転倒防止や歩行の妨げにならないよう、ベッドやタンス等の配置に気を付けている。利用者の好みや過ごしやすい環境を聞きだし、納得する空間を提供している。	家族へ利用者の愛用品や馴染みの物等の持ち込みを働きかけている。ベッドやキャビネットは備え付けであり、利用者の意向や身体状況、生活習慣等、安全面に配慮して配置を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの状態を把握し、利用者が安全に生活できるよう、理解しやすいように、目印を付けたり、名前等を大きく掲示している。		